

付表Ⅳ－1. 1991～2000年に使用した営巣地における繁殖ランク別の例数とその比率，および営巣域と人間活動域の最短距離と高度差．

テリトリーコード (生息ランク) 巣 番	各巣番の 使用回数	繁殖失敗の例数と割合				巣立ち前後期 ^{※4} 例 数	鳥獣保護区の 設定の有無 ^{※5}	営巣域 ^{※1} と人間活動域 ^{※2} の最短距離 ^{※1,3} ／高度差 ^{※1,3}		
		造巣・抱卵期 例数	抱卵期 比 率	巣内育雛期 例数	巣内育雛期 比 率			造巣期	抱卵期	巣内育雛期
1 7 0 1 (A)										
N 1	1	0	0	0	0	1	無	0.7km ／ -130m	0.7km ／ -130m	0.7km ／ +400m
N 2	4	1	0.25	0	0	3	無	2.7km ／ +580m	2.7km ／ +580m	2.7km ／ +580m
1 7 0 2 (A)										
N 1	3	0	0	0	0	3	無	0.5km ／ +200m	0.5km ／ +200m	0.5km ／ +200m
N 2	3	0	0	0	0	3	無	1.4km ／ +400m	1.4km ／ +400m	1.4km ／ +400m
1 7 0 3 ^{※6} (B)										
N 1	5	2	0.4	2	0.67	1	無	4.3km ／ +320m	4.3km ／ +320m	0.3km ／ - 20m
N 2	1	0	0	0	0	1	無	4.7km ／ +490m	4.7km ／ +490m	0.8km ／ +150m
1 7 0 4 (B)										
N 3	5	3	0.6	1	0.5	1	無	3.8km ／ +670m	1.1km ／ +320m	1.1km ／ +320m
1 7 0 5 (B)										
N 1	3	1	0.33	0	0	2	無	2.3km ／ +360m	0.6km ／ +260m	0.6km ／ +260m
N 2	2	1	0.5	0	0	1	無	1.8km ／ +110m	0.3km ／ +120m	0.3km ／ +120m
1 7 0 6 (B)										
N 1	2	2	1.0	0	—	0	有	1.8km ／ +390m	0.3km ／ +160m	0.3km ／ +160m
N 2	6	6	1.0	0	—	0	有	1.9km ／ +310m	0.3km ／ + 80m	0.3km ／ + 80m

※1：営巣域とは，営巣地または営巣地のある斜面の真上の尾根を指す．最短距離及び高度差の測定の際には，営巣地から人工建築物が直接見通せる場合には営巣地からの距離を使用し，見通せない場合には営巣地のある斜面の真上の尾根からの距離を使用した．高度差は，営巣地が人工建築物より高い場合には「+」を，低い場合には「-」を付記した．

※2：人間活動域とは，主な道路，幹線林道，レクリエーション施設など，継続的，連続的に人間活動が行われる人工建築物が存在する地域を指す．また，積雪により人間活動が制限され人工建築物が使用できない場合には，人間活動域と見なさなかった．

※3：最短距離及び高度差は，国土地理院の2万5千分の1の地形図から読みとった．

※4：巣立ち前後とは，ニホンイヌワシの巣立ちまでの最短日齢の70日齢，最長日齢の94日齢，平均日齢の77.9日齢（日本イヌワシ研究会 1985）と，巣立ちした幼鳥の行動圏が巣立ち後1ヶ月には半径500m以上に拡大すること（環境庁自然保護局野生生物課編 1996）により，70日齢から巣立ち後1ヶ月と設定した．

※5：営巣地における鳥獣保護区及び特別保護地区の設定状況．

※6：このテリトリーは，積雪期間の入山がほとんど困難で，鳥獣保護区外でも狩猟を行なうことが可能な期間は限られる．